

小城市タイムライン（平成 26 年度版）について

1. 関係機関の行動項目の確認

小城市洪水版タイムライン（平成 26 年度版）について、以下を確認頂く。

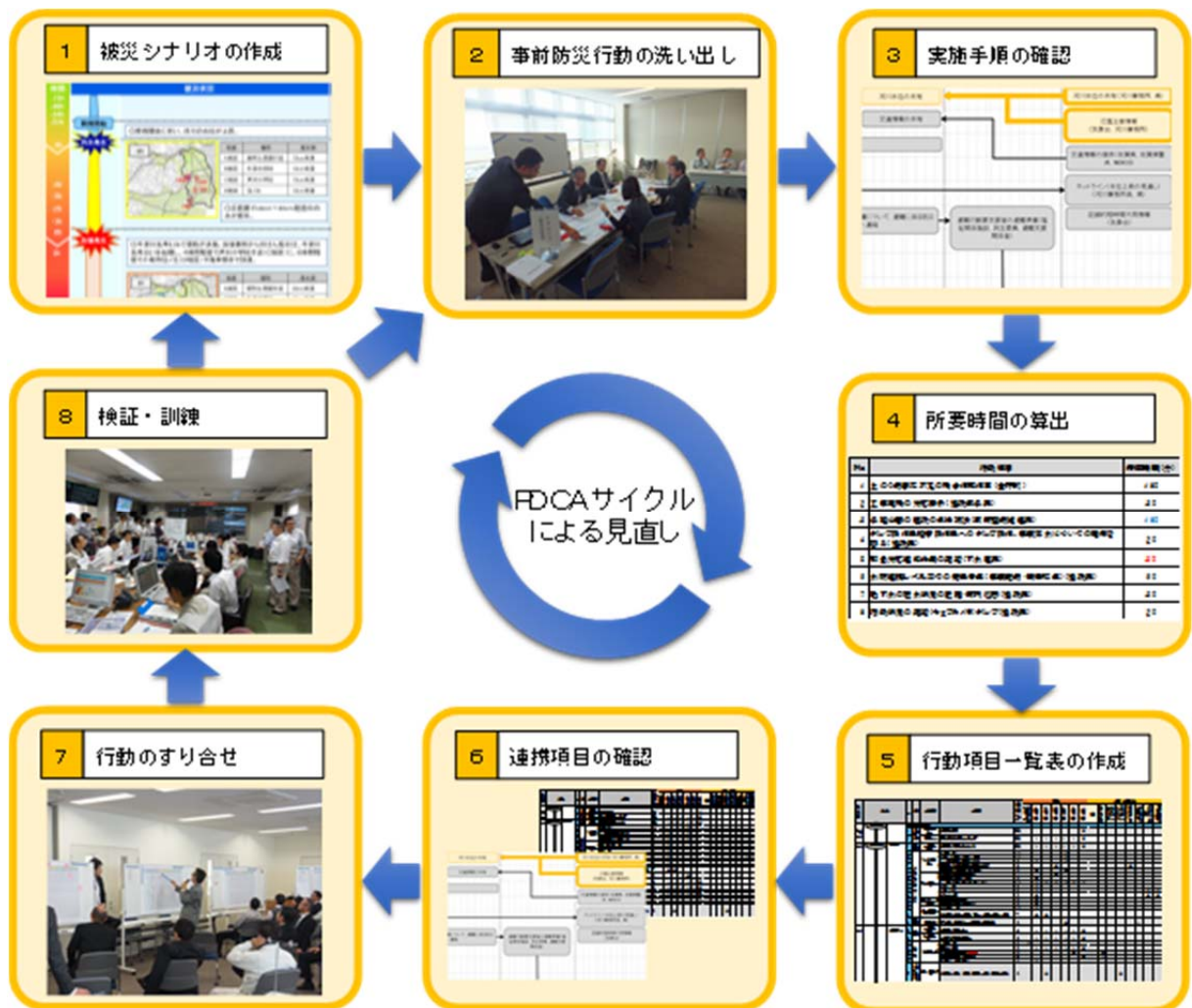
- ①小城市からの意見で追加された、関係機関の行動項目の内容、実施可否等
- ②その行動にかかる所要時間及び実施のタイミング

2. 今後の展開について

(1) 洪水版タイムラインの普及について（洪水版タイムラインの作成手順書）

小城市以外の自治体で、洪水版タイムラインを作成するための手順書を作成する。手順書には、実施手順、実際の検討中の事例などをコラム的に紹介する他、必要な道具、検討の参考となる資料一覧、様式などを収録する。

■洪水版タイムラインの作成手順（案）



(2) その他災害への展開について

第2回小城市研修会では、その他災害への展開を目途として、土砂災害、高潮災害時に必要な行動をする上で、「きっかけとなる情報」及び「留意が必要な事項」について意見出しを行った。

今後、土砂災害、高潮災害を想定したタイムラインの展開を検討するにあたり、次頁に示す事項について意見を頂きたい。

<第2回小城市研修会で出た主な意見>

	きっかけとなる情報	留意点
土砂災害	<ul style="list-style-type: none">・ 気象警報・ 被害通報・ 前兆現象 (山鳴り、川の色、水位)・ 河川水路の氾濫・ 土砂災害警戒情報	<ul style="list-style-type: none">・ 夜間巡視の禁止・ 巡視職員の安全確保・ 夜間の避難勧告等発令の判断・ 安全な避難路の確保・ 安全を考慮した避難所の選定・ 要配慮者への配慮
高潮災害	<ul style="list-style-type: none">・ 台風情報・ 高潮警報・ 潮位、気圧・ 通報や問い合わせ・ ウェブカメラによる情報	<ul style="list-style-type: none">・ 避難勧告等の発令区域の設定・ 巡視職員の安全確保・ 夜間の避難勧告等発令の判断・ 安全を考慮した避難所の選定、 (2階以上が望ましい)・ 高潮災害のリスクが高い地区や地形の特徴を事前に周知する必要がある

＜ご意見を頂きたい事項＞

1. 土砂災害	
1-1	土砂災害警戒情報が発表されてから、災害が発生するまでの時間の考え方について
1-2	避難勧告等発令区域の設定に関する考え方について
1-3	住民避難を実施する上で留意すべき事項について
1-4	巡視員の安全確保について（退避のタイミング・指導について）
2. 高潮災害	
2-1	高潮警報が発表されてから、災害が発生するまでの時間の考え方について
2-2	住民避難を実施する上で留意すべき事項について
2-3	高潮による浸水被害を軽減するための事前行動について
2-4	海岸沿いを通行する車両の安全確保について
2-5	市域をまたぐ広域避難の必要性、協定等について
2-6	防災関係者の安全確保について（退避のタイミング・指導について）

(3) 今後の展開

①洪水版タイムラインについて

洪水版タイムラインの作成手順書により、小城市以外の自治体へ普及を行うとともに、実際の出水対応による「検証」と、自治会等地域コミュニティーの意見を取り込むことによる「進化」を行う。

②土砂災害、高潮災害への展開について

第2回小城市研修会と第2回検討会の結果を踏まえ、「タイムラインを土砂災害、高潮災害へ展開するうえで必要な留意点等」を取りまとめるとともに、近年の土砂災害、高潮災害の事例に基づく「安全な避難」の視点を整理し、次年度に向けて「タイムラインの土砂災害、高潮災害への展開に向けた視点」を整理する。

次年度は上記の整理を踏まえて、対象自治体を選定し、土砂災害、高潮災害に適用したタイムラインを作成する。

(4) 次年度に向けた要望等について

小城市より、次年度に向けて以下の要望が意見として上げられた。

① 県河川の追加について

現在作成中のタイムラインは、国管理河川の基準を前提とした時間軸となっていることから、県管理河川の水位情報も踏まえた対応も盛り込み、タイムラインを充実させたい。

② 県河川を追加した場合の情報の受け渡しについて

県管理河川の水位情報を追加した場合に、国管理河川との情報受け渡しと違う点や、その他機関に関わる事項はないか確認したい。